

SNW対話イン九州工業大学 2014 事後アンケート結果 (平成 26 年 11 月 13 日開催)

纏め：廣 陽二

1. アンケート回答者 33 名

(内訳)

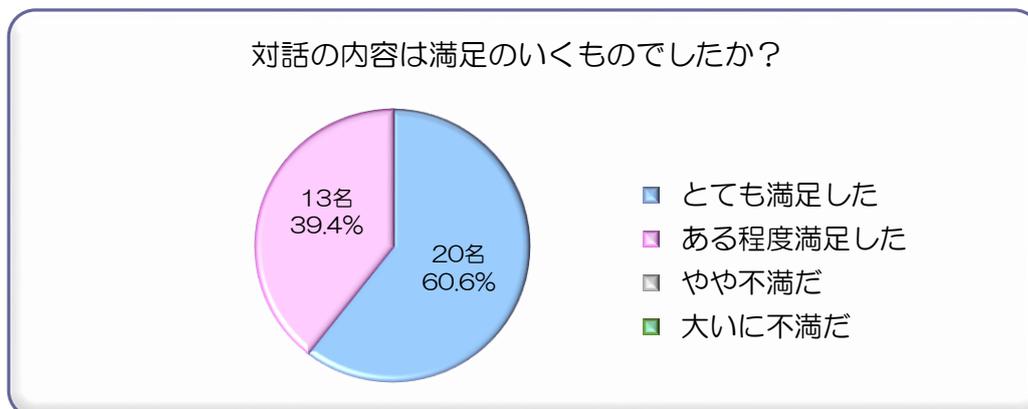
- | | |
|------|-----|
| ・ M1 | 32名 |
| ・ M2 | 1名 |

2. 対話会について

(1) 対話の内容は満足のいくものでしたか？その理由は？

とても満足した	20名 (60.6%)
ある程度満足した	13名 (39.4%)
やや不満だ	0名 (0.0%)
大いに不満だ	0名 (0.0%)

「とても満足した」が6割を超え、「ある程度満足した」を加えると100%になり、「やや不満だ」、「大いに不満だ」の回答はなかった。



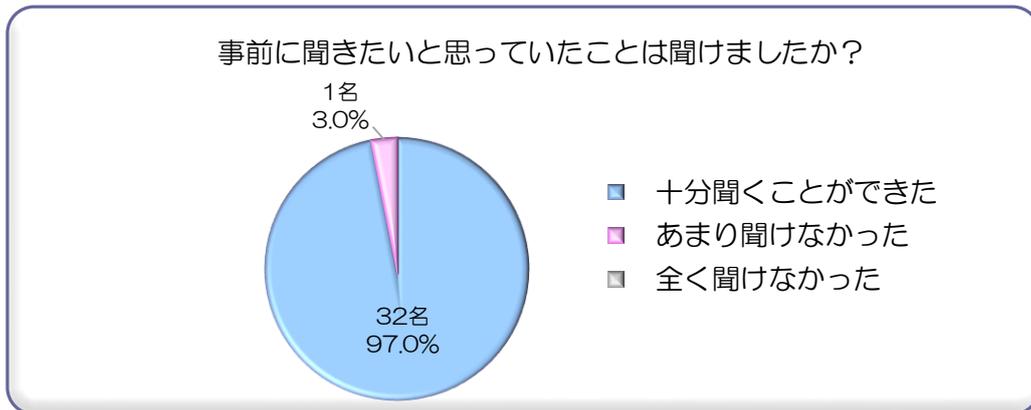
<理由>

- ・ シニアの方々と交えて多様な視点で話し合えたから。
 - ・ 自分が疑問に思っていたことに、専門家の方が丁寧に答えてくれたから。
 - ・ 正確な知識を得ることができたと感じたため。
 - ・ ディスカッションをする中で、様々な意見交換ができたから。
 - ・ 専門家の方と話せたことで、問題に対してより深く議論できた。
 - ・ 異なる視点から意見することができ、皆が対話に参加していたから。
 - ・ 原子力の開発や運営に携わってきたシニアとの対話は、経験された話など、TV やネットでは知ることのできないことも聞くことができ、貴重な体験ができて良かった。
 - ・ 原子力に関する専門的なことや現在の電力会社、メーカーの人たちの意見が聞けてためになった。
 - ・ 事前にある程度メールで議論していたため、焦点を絞って対話することができたから。
- ・ 意見は多く出たが、「討論」のようなものができなかった。

(2) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分聞くことができた 32名 (97.0%)
あまり聞けなかった 1名 (3.0%)
全く聞けなかった 0名 (0.0%)

1名を除き全員が「十分聞くことができた」と回答している。



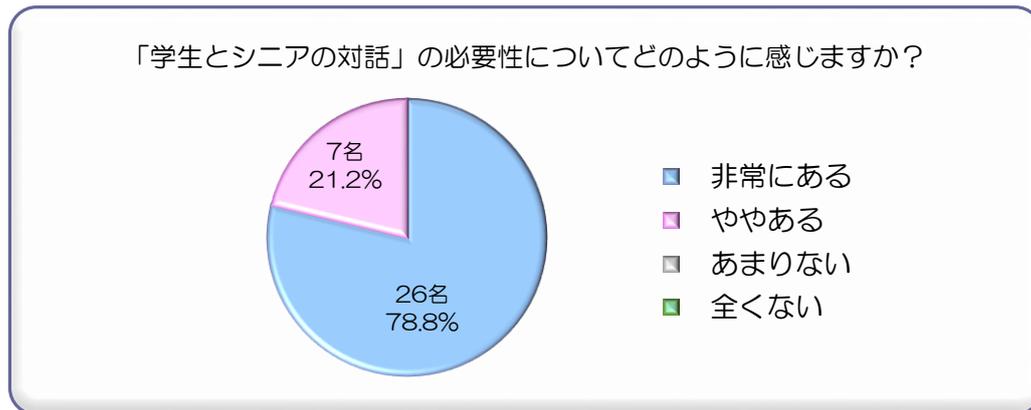
(3) 今回の対話で得られたことは何ですか？

- • 物の一面を見るだけでなく、様々な角度から考える必要がある。
 - 文章ではなく、シニアの方々から生の情報を得ることができた。
 - 日本の原子力に対する取り組み。
 - どういった団体が原子力に反対しているのかが知れた。
 - 原子力に関する理解を深めることができた。
 - 原子力の必要性と正しい情報の重要性の再認識。
 - 私自身が原子力発電に対してできること。
 - 原子力、放射能に対する正しい知識。
 - エネルギーや放射線に対する知識量によって、賛成と反対派に分かれているので、これらの教育が重要であるということを得られた。
 - 原子力や放射能についての教育はとても重要であること。反対派の人は大衆感情の影響で正しい判断ができていない。
 - 長期的な視点も含めた原子力と他の発電方式のメリットとデメリット。
 - 問題に対して根本的な解決案は出なかったが、解決するに對して何が一番重要か、どういったことをすることが大切かを話すことができた。
 - どういった人たちを説得すればよいのかということが具体的にになった。
 - 原子力発電に関するさまざまな知識。
 - 多種多様な疑問があり、それに対する対策がいろいろ見つかったこと。
 - 原子力発電の重要性の再認識、日本のエネルギーの現状を詳しく理解することができた。
 - 正しい情報を判断する重要性の再確認。
 - 過大評価するわけでもなく、過小評価するわけでもなく、正しい知識を持つことの重要性。
 - 原子力について勉強してきて、出てきた疑問に丁寧に答えていただき解決することができた。
 - 今後、原子力の再稼働には何をしていくべきか、また、再稼働しなかった時のデメリットなどが分かった。
 - 今まで日本を中心に原子力問題、エネルギー問題を考えていたが、節電は日本がするより、先進国がした方が良いといった、海外視点の意見を聞くことができ、考え方を学ぶことができた。
 - 情報の選別、一人一人が正しく判断をする力（教養）。
- • 日本の現状、日本人の習性などを学び、原子力が反対されている理由が少し分かった。

(4) 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	26名 (78.8%)
ややある	7名 (21.2%)
あまりない	0名 (0.0%)
全くない	0名 (0.0%)

「非常にある」の回答が8割近くを占め、「あまりない」、「全くない」の回答はなかった。



<理由>

- 学生だけの知識では狭い範囲でしか考えられないが、シニアの方と話すことで広い範囲での話ができる。
 - ・ 原子力発電の理解の助けとなるため。
 - ・ シニアの方からの情報が得られることと、実際に原子力に携わってる方からの話を聞くことができる。
 - ・ 原子力について知ることは重要であるが、普段はその機会がない。専門家と話すことで自分の意見が持てるようになっていったから。
 - ・ メディアなどから得られる知識には限界があり、本質を知るためには、専門家の正しい知識が必要だから。
 - ・ なかなかこういう機会はなく、ためになった。最初はものすごく嫌だったけど気持ちが変わった。
 - ・ 実際の日本の現状について、シニアの方々の知識を聞くことができたから。
 - ・ 就職活動を目前にして、エネルギー問題に関する自分の意見を固めておくため。
 - ・ 学生にはやはり経験がないため、豊富な経験を持つシニアとの対話より普段知り得ない情報を手に入れることができる。
 - ・ 学生は教育による知識しかない、しかし、シニアは経験という重要な要素がある。これを知ることが非常に有意義なことだったと感じたから。
 - ・ 世代が異なることで、違う観点から議論できるのは良いと思う。
 - ・ シニアとの対話により、知識だけでなく対話型のコミュニケーションの取り方を体験することができたから。
 - ・ 知識が豊富で知らない基礎情報をわかりやすく教えてもらい、対話の進行がスムーズだったから。

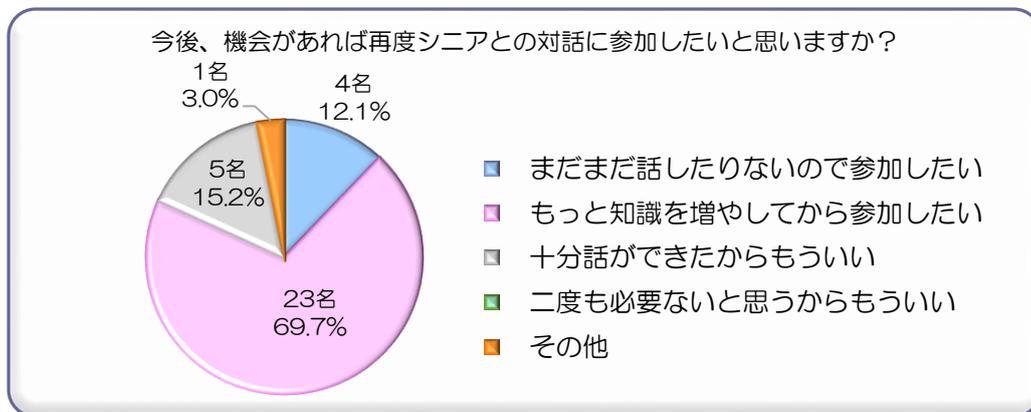
- 正しい知識を持っている方の話を聞くことによって、自分の思っている原発のイメージを修正、具体化することができた。
- 対話があるので、そのために勉強をし、知識を増やす機会が得られて良かった。TV やネットにはない情報が聞ける場なので必要だと思う。
- 学生だけの交流では深い知識は得られないから。また、少数のグループで行うことにより、自分の意見も発言しやすくて良かった。
- 実際に電力・メーカーで勤めている方々の声を聞くことができ、様々な視点からの意見を聞くことができるから。
- 実際の現場で働かれている方と話すことで、ニュースなどで聞いたことが正しいかどうか判断でき、自分の意見、理解ができる。

(5) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

まだまだ話したりないので参加したい	4名 (12.1%)
もっと知識を増やしてから参加したい	23名 (69.7%)
十分話ができただからもういい	5名 (15.2%)
二度も必要ないと思うからもういい	0名 (0.0%)
その他	1名 (3.0%)

「もっと知識を増やしてから参加したい」の割合が一番高く、約7割を占め、「まだまだ話したりないので参加したい」を加えると8割を超える。

「その他」と回答した1名の理由は“テーマによる”であった。

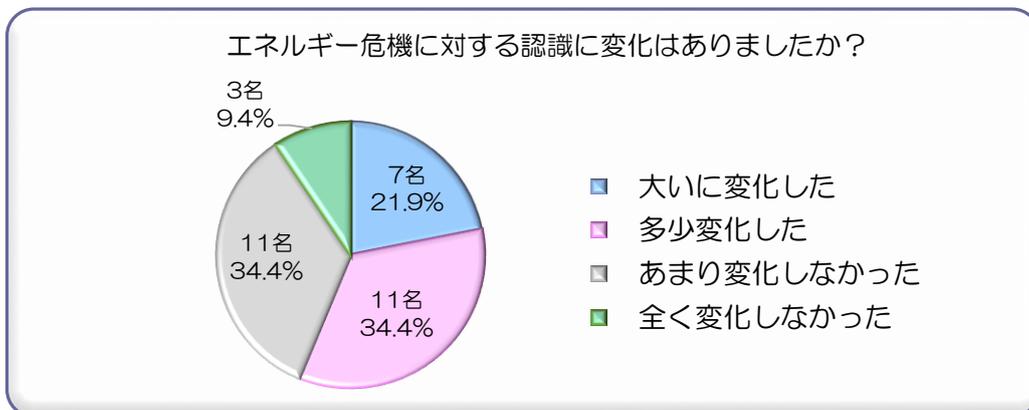


(6) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	7名 (21.9%)
多少变化した	11名 (34.4%)
あまり变化しなかった	11名 (34.4%)
全く变化しなかった	3名 (9.4%)

「大いに变化した」又は「多少变化した」の回答は5割を超える。

「あまり变化しなかった」11名の回答理由は、“もともと原発については推進派だったから”、“事前知識が充分にあったため”と同様の意見、また、「全く变化しなかった」(3名)の回答理由は“そのような話はしなかったから”、“対話中は、既知の知識ばかりであったから”、“もともとエネルギー危機に対する認識はあったので変化はなかった”であった。



<理由>

- 現在、エネルギー危機は目に見えずわかりにくい、思っていたより深刻であることが分かった。
 - ・ 国内のみならず世界全体に関わるから。
 - ・ これまでエネルギー危機について、あまり考えたことはなかったので認識が変わった。
 - ・ 火力に依存している状態は危ないと思った。
 - ・ もともと原発については推進派だったから。
 - ・ 事前知識が充分にあったため。
 - ・ もともとエネルギー（電力）や環境に関する研究をしているので、エネルギーの将来についての認識は危機感を持っていたから。
 - ・ 再生可能エネルギーの限界を知ったから。
 - ・ もともとエネルギー危機に対する認識はあったので変化はなかった。
 - ・ エネルギー危機はコストの増加だけでなく、技術力低下の原因などにもつながることが理解できたから。
 - ・ エネルギー資源量には限界があり、それをどうくい止めるかが重要。
 - ・ 以前、エネルギーセキュリティについて討論を行う機会があったため、認識の変化はあまりなかった。以前の討論の前後では、エネルギー危機に対する認識は大きく変化した。
 - ・ 日本が直面している危機の重大さを知ることができた。
 - ・ エネルギーの枯渇問題は太陽光発電などを使用すればよいと思っていたが、グリーンパドック

クスなどの問題が発生することがあると分かったから。

- 今まで日本を中心に原子力問題、エネルギー問題を考えていたが、節電は日本がするより、先進国がした方が良いといった、海外視点の意見を聞くことができ、考え方を学ぶことができた。
 - もとから原子力だけでなく、天然ガスなどエネルギー危機に対して関心があったので大きな変化はなかった。しかし、改めて重要なことだと感じた。
 - 火力発電の限界が近づいていることを知り、原子力発電の稼働が必要と考えた。
 - 対話中は、既知の知識ばかりであったから。
-
- • 論点と違ったから。
 - そのような話はしなかったから。
 - 対話のテーマが反原発派の説得だったので、そこまでの認識変化はなかった。

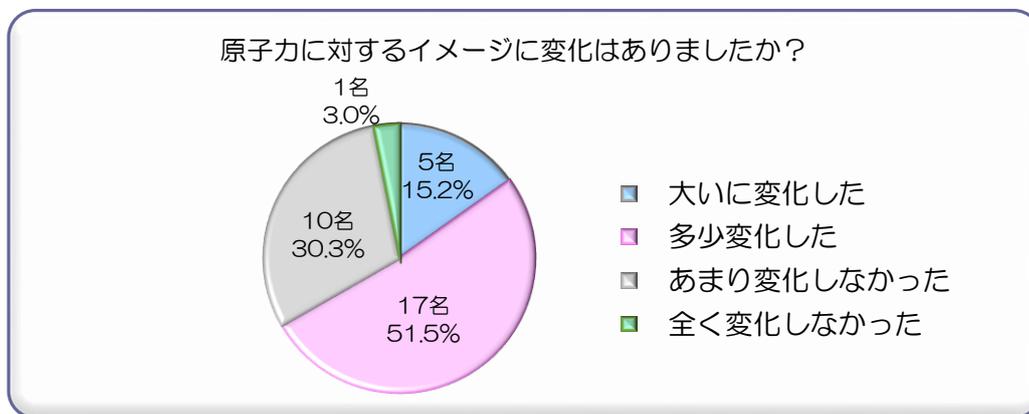
(7) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	5名 (15.2%)
多少变化した	17名 (51.5%)
あまり变化しなかった	10名 (30.3%)
全く变化しなかった	1名 (3.0%)

6割以上が「大いに变化した」と「多少变化した」と回答している。

「あまり变化しなかった」と回答した10名のうち、9名は“もともと原子力に対しては良いイメージを持っている”、“原子力に対してはもともと肯定的な立場だったから”と同様の意見、1名は“論点と違ったから”であった。

また、「全く变化しなかった」1名の回答理由は、“原子力推進派の方々の意見を聞いたが、自分も推進派なので変化はなかった”であった。



<理由>

- 実際の震災を経験しているため、あまり推進することを避けていたが、今後のエネルギー確保は自らの生活にもつながることから推進せざるを得ないと感じたから。
 - ・ もともと原子力に対しては良いイメージを持っている。
 - ・ 必要不可欠なものだと思ふようになった。
 - ・ 地震では壊れていずに、津波で損壊したということを知ったため。
 - ・ 自分の印象以上に安全な物であると感じた。
 - ・ 原子力の事故の発生率はとても低いことがデータとして分かったため、原子力はより安全だと思った。
 - ・ 原子力推進派の方々の意見を聞いたが、自分も推進派なので変化はなかった。
 - ・ どういう人たちが本当に反対しているのかが、より具体的になった。
 - ・ 経済面だけでなく、技術面においても必要な発電であることが分かったから。
 - ・ 原子力の安全性、そこまで恐くないといったイメージ。
 - ・ 現場で働く人の経験を聞き、より原子力発電が安全であることを感じたから。
 - ・ 他の発電を活かすためにも原子力発電が必要ということ。
 - ・ 放射線や放射性廃棄物について聞いたり勉強したりして、影響が小さいことがわかり、TVでは聞かない情報を得ることでイメージは変わった。
 - ・ 原子力に対してはもともと肯定的な立場だったから。

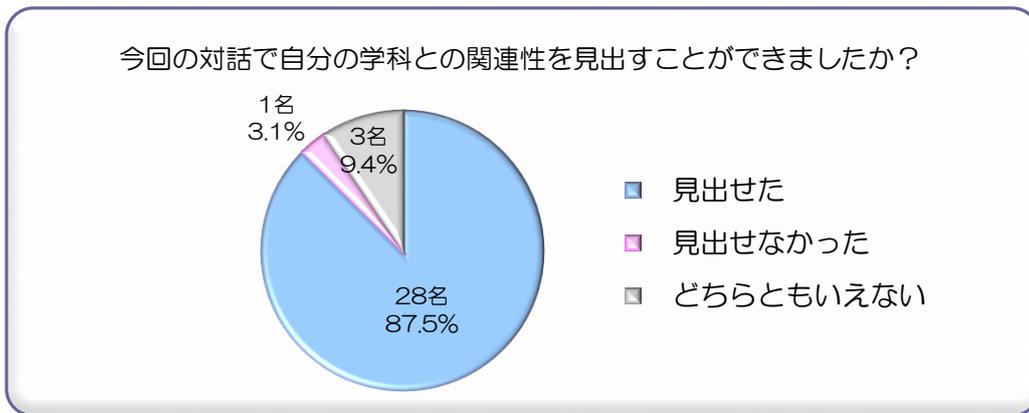
- 昨年、川内原子力発電所に行き説明を受けた時と同じような話を受けたため、あまりイメージは変わらなかった。
 - 普段、この問題を考えるとき消費者の観点から考えるが、技術者や技術の維持という点からも見ると新しい視点が見えた。
 - 放射線は危ないと思っていたが、正しい知識を持っていれば大したことはないと知ることができた。
 - 原子力だけが危険なわけではないと感じるようになった。
-
- 論点と違ったから。
 - テロの的になるのでは、という意見があったため。
 - ウラン資源にも限りがある。原子力ばかり使うと、もし使えなかった場合、復旧に時間がかかる。
 - 原子力の危険性を完全にゼロにすることはできないから。

(8) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？

見出せた 28名 (87.5%)
見出せなかった 1名 (3.1%)
どちらともいえない 3名 (9.4%)

4名を除く全員が「見出せた」と回答している。

「見出せなかった」と回答した1名は、「あまりそういった話にはならなかった」、「どちらともいえない」の3名は「直接的な関係は無いから」、「関連性の問題ではない」、「専門的な会話（電気に関するもの）を行わなかった。電力という点で関連があると初めから思っている」であった。



<理由>

- エネルギー分野を勉強しているため。
 - ・ エネルギーに関する問題は電気と密接な関係にあるため。
 - ・ エネルギー運用やグリーンパラドックスの考え方。
 - ・ 発電の多様性の観点から、原子力発電の必要性を見出すことができたから。
 - ・ エネルギーの現状を知ること、それに沿った対策を今後の研究に活かせる。
 - ・ 電気、エネルギーを生み出す源の話をしており、電気工学を学ぶ自分たちには避けては通れない問題だと思う。
 - ・ 電力の安定供給に関する話もあり、電気を学んでいる者として再度考えることができた。
 - ・ 自分らが今まで情報を得て学んだことと、専門家の意見を照らし合わせることができたから。
 - ・ 原子力発電に用いる部品に関連性を見出した。
- 直接的な関係は無いから。
 - ・ 関連性の問題ではない。
 - ・ 専門的な会話（電気に関するもの）を行わなかった。電力という点で関連があると初めから思っている。
 - ・ あまりそういった話にはならなかった。

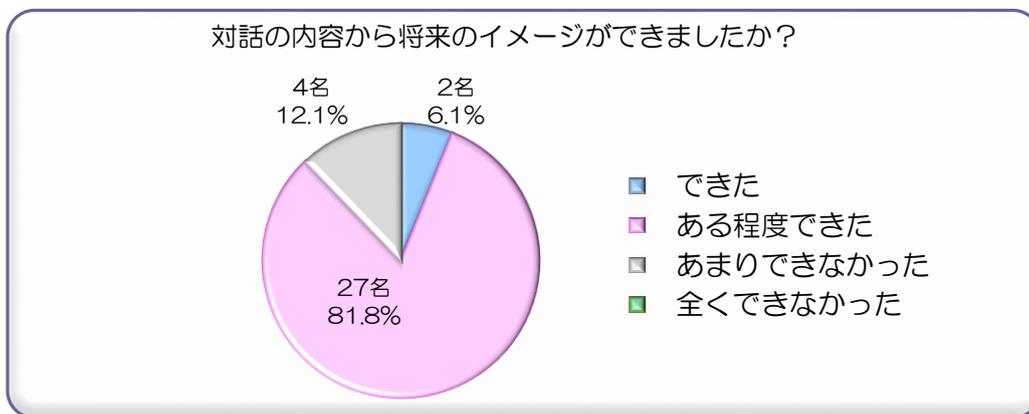
(9) 対話の内容から将来のイメージができましたか？その理由は？

できた	2名 (6.1%)
ある程度できた	27名 (81.8%)
あまりできなかった	4名 (12.1%)
全くできなかった	0名 (0.0%)

4名を除き全員が「できた」、「ある程度できた」と回答して入る。

「あまりできなかった」の4名の回答理由は、“私たちができることについては話し合ったが、将来のイメージとは関連性が弱いと思った”、“原子力を推進させるために国が動く所がイメージできない”、“対話をすればするほど将来のイメージが複雑となり、様々な考え方ができるため”、“イメージはできないが、予測を立てることはできた”であった。

また、「全くできなかった」の回答はなかった。



<理由>

- 現在の段階では、日本にとって原子力は重要なエネルギーで、将来にわたってもそうであると考えることができたから。
 - ・ 現状の政治・経済・CO₂排出量を考慮したら、原子力発電なしでは環境悪化・エネルギー不足があきらかだと思ったから。
 - ・ エネルギーのバランスの重要性を踏まえた上で考え直したため。
 - ・ 原子力発電に関する正しい知識を身につけ、まずは身近な人に発信していく必要があると思ったから。
 - ・ シニアの方々に再稼働推進の方々が多く見受けられ、日本がその方向に動きそうだから。
 - ・ 将来は火力も原子力も再生可能エネルギーも必要で、そのバランスが重要だという考えを持っていて、対話でもそのような話になり、実際に川内原子力発電所も再稼働の話もあり、将来のイメージはある程度できた。
 - ・ 将来、化石燃料が枯渇していることから、太陽光発電や原子力が考えられる。また、電力の自由化が始まった場合は、電力の負荷追従できる発電が必要になってくると考えられている。
 - ・ 資源問題や原子力、再生可能エネルギーそれぞれの課題を明確にできたため、自分らの世代が将来これらの課題に対して取り組みたいと思ったから。
 - ・ やはり原子力発電なしに、今後の日本の経済発展はないのではないかと考えた。

- ・ 私たちができることについては話し合ったが、将来のイメージとは関連性が弱いと思った。
- ・ 原子力を推進させるために国が動く所がイメージできない。
- ・ 世論に左右されてしまうので、将来のイメージはつかみにくい。
- ・ 対話をすればするほど将来のイメージが複雑となり、様々な考え方ができるため。
- ・ イメージはできないが、予測を立てることはできた。

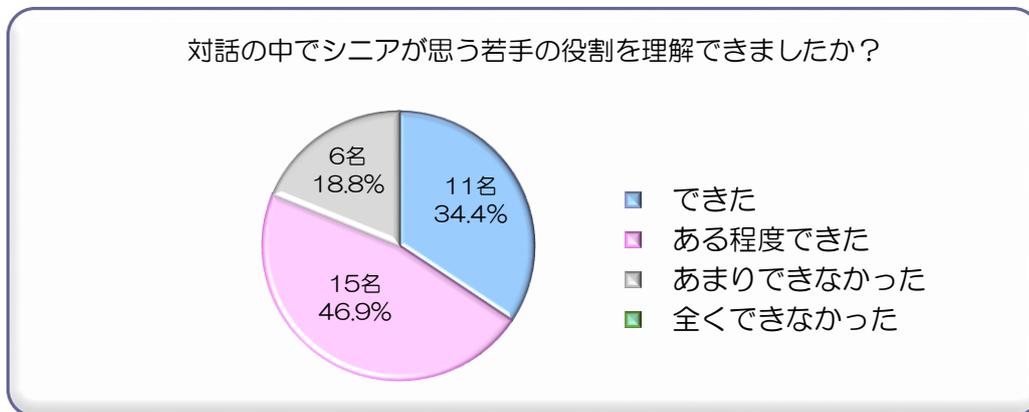
(10) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？またその理由は？

できた 11名 (34.4%)
ある程度できた 14名 (46.9%)
あまりできなかった 6名 (18.8%)
全くできなかった 0名 (0.0%)

約8割が「できた」、「ある程度できた」と回答している。

「あまりできなかった」の6名は、“多分、正しい知識で技術を使っていくことだと思う”、“そのような話にならなかったから”、“社会貢献”、“そういった内容の話が出なかった”であり、2名は空欄であった。

また、「全くできなかった」の回答はなかった。



<理由>

- 現状で困難である原子力の知識を教えなければ、原子力発電の恐怖感が軽減されないと感じたから。
 - ・ 私たちが開発・研究することで日本は変わっていく。
 - ・ シニアの方々からの知識を受けて、新しい技術を開発していくことが大事だということが分かった。
 - ・ 新たなエネルギー、効率の改善策など、解決せねばならない問題の多さから。
 - ・ 私たち理工系の学生がきちんとした知識を身につけた上で、若者の先頭に立って原子力についての議論をしていく必要があると思ったから。
 - ・ 原子力発電に関する正しい知識を身に付け、まずは身近な人に発信していく必要があることと、原子力についてさらに知識を深め議論していくことが重要だとわかったため。
 - ・ シニア層は対話のお題に対する知識をいろいろ教えていただいたので、それを更に若い層に伝えることが役割だと思った。
 - ・ 正しい知識を身につけ、それを分かっている人たちに教えていってあげることが大事だと思う。
 - ・ 原子力の技術を継承していくこと。また伝えていくこと。
 - ・ 資源問題や原子力、再生可能エネルギーそれぞれの課題を明確にできたため、自分らの世代が将来これらの課題に対して取り組みたいと思ったから。
 - ・ 日本の将来を支える技術者として正しい判断基準を持つこと。

- ・ 多分、正しい知識で技術を使っていくことだと思う。
- ・ そのような話にならなかったから。
- ・ 社会貢献。
- ・ そういった内容の話が出なかった。

(11)自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？できるだけ詳しくお答えください。

- ・あまり考えに違いはなかった。今、間違っただ知識で批判している人などがいるが、ある程度知識のある我々が正しい理解を広めていくべきだと思う。
- ・原子力に関する知識を間違っただ認識してる人が多いので、正しい認識をしてものごとを判断してもらえよう電気電子工学の学生として努力しなければならないと感じた。
- ・シニアの話しを聞くことで報道のデタラメさを知った。原子力に対する正しい知識の大切さを知った。
- ・何故、原発が必要なのかを明確に教えて頂いたので良い勉強になった。
- ・原子力に反対する人がいても、その人たちが賛成することはない、ということもある。正しい知識・理解をして、将来へ向けて伝えていくことが必要。
- ・あまり違いはなかった。自分たちの世代は次の世代へ向けて、いろいろなことを考えなければいけないという思いで生きていかなければならない。
- ・技術的な面だけでなく、電力関係にも地域住民にも属さないような第三者機関を作ること、原子力の再稼働も進むというシニアの方の意見は印象に残った。
- ・化石燃料の枯渇など様々な観点において原子力が必要であると私も感じており、あまり違いはなかったと考えられる。自分の考えと近かったため、変化はあまりなかった。
- ・一般の市民は大衆感情や偏った報道に惑わされており、理工系の私たちが正しい情報を発信していく必要があると思った。
- ・シニアの方のお話で一番印象的だったのはグリーンパドックスだ。環境のために行っていることでも、全体的に評価すると環境には悪影響になることがあり、気をつけて取り組んでいかないといけないと思った。
- ・今まで日本を中心に原子力問題、エネルギー問題を考えていたが、節電は日本がするより、先進国がした方が良かったといった、海外視点の意見を聞くことができ、考え方を学ぶことができた。
- ・当初、シニアの方は原発賛成派にするための説得が役割と考えていたが、技術者として、また利用者として正しい判断ができるようにアドバイス、手伝いをすることが役割だと思った。

(12) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・ 対話会から多く得られるものがあったので、機会があればまた行いたい。
 - ・ 準備が思いのほか大変であって、最初はやりたくなかったが、実際に参加して良かったと思った。自分たちのグループのテーマが、そこまで技術的なことではなかったことも幸いしたと思う。
 - ・ 今回の対話を通して原発に対する理解を深めることができて良かった。
 - ・ 知らないことが多くてとても有意義な時間を過ごすことができた。また、このような機会があれば次はもう少し知識を深めてから望みたいと感じた。
 - ・ シニアの人たちと話す機会はなかなかないので貴重な経験ができた。ディスカッションをすることで様々な意見を聞くことができて参考になった。
 - ・ 現状では、大衆感情や偏った報道に影響されない情報を市民が得ることはとても難しいことだと思った。
 - ・ このような企画をきっかけに、原子力発電のことはもちろん日本のエネルギー事情や世界の政治情勢などを知ることができたので良かった。
 - ・ 基本的な話から具体的な話まで、分かりやすく詳しく教えてもらい、とてもためになることばかりであった。シニアの方もとても丁寧に話をして頂けたことが良かった。
 - ・ 今回は原子力関係の方と対話し、とても貴重な体験ができた。少人数で対話できたので、自分の意見が言いやすく、たくさんの意見が聞けて良かった。
 - ・ この企画の当日までに、様々な資料や意見が書いてある書籍を読むことで、知識を得ることができたと思う。
 - ・ 原子力シニアの方たちの熱い思いを感じた。もっと議論をしたかった。時間が少なかった。
- ・ 賛成派のシニアだけでなく、反対派のシニアの意見も聞きたい。
 - ・ メンバーが固定されていて、良い点と悪い点があると感じた。
 - ・ ファシリテーション要領がわかりにくかったので、もう少し詳しく事前に知りたかった。
 - ・ 原子力発電賛成派のシニアの方しかいなかったのが、反対派がいてもいいと思った。
 - ・ 対話の中で多数の意見に同意するのではなく、反対派の芯が通った意見を言う・聞くことができ、味のある討論ができたので満足。